

2023年4月21日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

「循環者教育」特設サイトを公開 —環境教育と創造性教育を融合した小中学生向けカリキュラムの共創へ向け始動—

国立研究開発法人科学技術振興機構（以下 JST）による「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」の地域共創分野・本格型プロジェクト「リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点」（代表機関：慶應義塾大学、プロジェクトリーダー：田中浩也 環境情報学部 教授）が、このたび、学校に向けた今後の取り組みのポータルとなる「循環者になろう」特設サイトを開設しました。これまで、鎌倉市内の小中学生を対象に行われてきた代表的な環境教育・創造性教育の事例を「社会でまわす」「地球にかえす」「未来へのこす」の3つの軸で整理すると同時に、今後それら3つを高次に融合させた「循環者教育」の総合的なカリキュラム構築へ向けて共創活動を進めていく計画です。

[ABOUT](#) [TALK](#) [PLASTIC](#) [MISSION](#) [CURRICULUM](#) [CONTACT](#)

循環者になろう。

文部科学省/JST「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」2023-2032

リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点（慶應義塾大学×鎌倉市）ターゲット2

産学官民が連携し、循環型社会の新たな担い手を育て、教育カリキュラムをつくりあげていくプロジェクトです。

慶應義塾大学が中心となり、幹事自治体である鎌倉市、幹事企業である株式会社カヤックらと運営する「リスペクトでつながる「共生アップサイクル社会」共創拠点」は、鎌倉市と企業 26 社の参加するコンソーシアムを中心とした共創の拠点づくりを進めています。このたび、コンソーシアムの分科会のひとつである「循環者学習分科会（事務局：株式会社高山商会）」が、2022 年度の活動成果をもとに特設サイトを公開しました。

本拠点の掲げる地域未来ビジョンである「循環者になるまち～社会でまわす、地球にかえす、未来へのこす～」をもとに、循環者学習分科会では、これまで、鎌倉市内の小中学生を対象に行われてきた代表的な環境教育・創造性教育の事例を収集し、体系的にインデックス化しました。また、フロー型循環、ストック型循環、生物型循環の3種類の「循環」が相互に連動し、ゆっくりと一步一步、未来へ向けて確実に進んでいくまちの姿を、小学生にもわかりやすく「カタツムリ・モデル」として提示しました。

今後、同分科会では、大学や企業による最新の研究事例を分かりやすく紹介するコーナー等を設け、小中学生向けカリキュラムのさらなる充実を図っていきます。また、これらのカリキュラム導入に関心を持つ学校現場との連携を深め、本拠点のビジョンとターゲット達成に向けて、新たな担い手と市民意識を育てていく計画です。

社会でまわす フロー型循環

ex: 企業による製品の“水平リサイクル”への貢献

未来へのこす ストック型循環

ex: 複数の材料ブレンドにより
長寿命化してまちの遊具や建築部材・公共財を製作

地球にかえす 生物型循環

ex: 堆肥化により鎌倉野菜を栽培



【田中浩也教授のコメント】

「サーキュラー・エコノミー」の概念を分かりやすく示した図として、イギリスのエレン・マッカーサー財団が発表した「バタフライ・ダイアグラム」が広く知られています。しかしこれまで、市民を中心とした循環型まちづくりの概念を分かりやすく表現する図は、ありませんでした。

今回提案する「カタツムリ・モデル」は今後、子供たちのみならず、幅広い世代の方々に、循環型まちづくりの概念と世界観を伝えるツールとなっていけばと考えています。

また今後も、コンソーシアム活動と学校現場とをつなぎ、自然を大切にするマインドと、テクノロジーを適正利用するマインドとを融合させ、環境教育と創造性教育を高次に合成した「循環者教育」のカリキュラムを、ブラッシュアップさせていきたいと考えています。

「循環者になろう」特設サイト

<https://junkansha.jp/>

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

【本件についてのお問合せ先】

E-mail:katatsumuri@junkansha.jp

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail:kri-pr@sfc.keio.ac.jp